

審査意見への対応を記載した書類（6月）（資料）

目次

【添付資料 1】	基本計画書（新）（旧）・・・・・・・・・・・・・・・・	P2
【添付資料 2】	教育課程等の概要（新）（旧）・・・・・・・・・・・・・・・・	P6
【添付資料 3】	シラバス「ケアの本質と倫理特講」（新）（旧）・・・・・・・・	P8
【添付資料 4】	設置等の趣旨（資料） 【資料 1-8】カリキュラムマップ（新）（旧）・・・・・・・・	P10
【添付資料 5】	設置等の趣旨（資料） 【資料 3-1】教育課程の構成（新）（旧）・・・・・・・・	P12
【添付資料 6】	設置等の趣旨（資料） 【資料 4-2】履修モデル（新）（旧）・・・・・・・・	P14
【添付資料 7】	授業科目の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	P16
	「看護教育実践特講」（新）（旧）	
	「看護学特別研究Ⅰ」（新）（旧）	
	「看護学特別研究Ⅱ」（新）（旧）	
	「看護学特別研究Ⅲ」（新）（旧）	
【添付資料 8】	シラバス・・・・・・・・・・・・・・・・	P28
	「看護学特別研究Ⅰ」（新）（旧）	
	「看護学特別研究Ⅱ」（新）（旧）	
	「看護学特別研究Ⅲ」（新）（旧）	
【添付資料 9】	教員名簿（新）（旧）・・・・・・・・・・・・・・・・	P34
【添付資料 10】	専任教員の年齢構成・学位保有状況【（新）（旧）】	P37
【添付資料 11】	専任教員一覧（新）（旧）・・・・・・・・・・・・・・・・	P39
【添付資料 12】	専任教員人事計画（新規資料）・・・・・・・・	P43

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン キョウトイクエイカン 学校法人 京都育英館								
フリガナ大学の名称	キョウトカンゴダイガクダイガクイン 京都看護大学大学院 (Kyoto College of Nursing Graduate School)								
大学の位置	京都府京都市中京区壬生東高田町1番21								
大学の目的	本学は、超高齢・少子社会を迎えた我が国において、医療技術の高度化と社会ニーズの多様化に対応する専門的な学術理論及びその応用を研究教授し、高度の知識・技術・医療倫理、そして豊かな人間性を身につけ幅広い教養と国際的な視野をそなえた専門的人材を養成し、保健・医療・福祉の発展に貢献することを目的とする。								
新設学部等の目的	本学看護学研究科博士課程では、グローバルで豊かな学識をもち、独創的に自立して研究活動を行い、看護の智と実践を創造することにより、地域の人々の健康・生活・環境を支援的に開発し、看護学の発展を推進する教育研究者の育成をめざす。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	看護学研究科 [Graduate School of Nursing] 看護学専攻 [Nursing Science] 計	3年	3人	—人	9人	博士(看護学) 【Doctor of Philosophy in Nursing】	令和6年4月 第1年次	京都府京都市中京区壬生東高田超1番21	
								【基礎となる学部等】 看護学部 看護学科 看護学研究科 看護学専攻 修士課程 14条特例の実施	
同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)	令和6年4月の看護学研究科看護学専攻(博士後期課程)の設置にあわせ、修士課程を博士前期課程に課程変更(届出)する。								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程	講義	演習	実験・実習	計	13 単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設	看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
		計	11人 (11)	2人 (2)	0人 (0)	0人 (0)	13人 (13)	0人 (0)	2人 (2)
	既設	看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程	10人 (10)	8人 (8)	0人 (0)	—人 (—)	16人 (16)	—人 (—)	—人 (—)
		計	10人 (10)	8人 (8)	0人 (0)	—人 (—)	16人 (16)	—人 (—)	—人 (—)
合計		15人 (15)	8人 (8)	0人 (0)	—人 (—)	23人 (23)	—人 (—)	—人 (—)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		16人 (16)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	16人 (16)		
	技術職員		0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)		
	図書館専門職員		1人 (1)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	1人 (1)		
	その他の職員		0人 (0)	0人 (0)	3人 (3)	0人 (0)	3人 (3)		
計		17人 (17)	0人 (0)	3人 (3)	0人 (0)	20人 (20)		大学全体	

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	借用期間：31年 借用面積： 8911.77㎡			
	校舎敷地	8,700.06㎡	— ㎡	— ㎡	8,700.06㎡				
	運動場用地	211.71㎡	— ㎡	— ㎡	211.71㎡				
	小 計	8,911.77㎡	— ㎡	— ㎡	8,911.77㎡				
	そ の 他	— ㎡	— ㎡	— ㎡	— ㎡				
	合 計	8,911.77㎡	— ㎡	— ㎡	8,911.77㎡				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		6,290.90 (— ㎡)	— ㎡ (— ㎡)	— ㎡ (— ㎡)	6,290.90㎡ (— ㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	7 室	9 室	4 室	1 室 (補助職員一人)	0 室 (補助職員一人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数					
		看護学研究科	看護学専攻 (博士後期課程)	14 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での 特定不能のため、 大学全体の数	
	看護学研究科	43,800 [950] (42,339 [914])	1,915 [10] (1,715 [9])	1,700 [2] (1,549 [1])	1,000 (933)	1,900 (1,823)	50 (50)		
	計	43,800 [950] (42,339 [914])	1,915 [10] (1,715 [9])	1,700 [2] (1,549 [1])	1,000 (933)	1,900 (1,823)	50 (50)		
図書館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
		268.35㎡	80		38,000				
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
		359.15㎡	—		—				
経 費 の 見 積 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	研究科全体 (図書購入費については、 電子ジャーナル経費を含む)
	経費の見積り								
	教員1人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	—千円	—千円	—千円	
	共同研究費等		1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円	—千円	
	図書購入費	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円	—千円	
	設備購入費	2,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円	—千円	
学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	700千円	500千円	500千円	—千円	—千円	—千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		雑収入等							
大 学 の 名 称 京都看護大学									
学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地
看護学部 看護学科		4	100	—	400	学士(看護学)	1.07	平成26年度	京都府京都市中京区 壬生東高田町1-21
大 学 の 名 称 京都看護大学大学院									
学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地
看護学研究科 看護学専攻 修士課程		2	7	—	14	修士(看護学)	1.07	平成30年度	京都府京都市中京区 壬生東高田町1-21
大 学 の 名 称 北洋大学									
学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地
国際文化学部 キャリア創造学科		4	75	—	300	学士(国際文化学)	0.45	平成30年度	北海道苫小牧市錦 西町3丁目2番1号
附属施設の概要		該当なし							

【添付資料1】

(旧)

(用紙 日本産業規格A4縦型)

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン キョウトイクエイカン 学校法人 京都育英館								
フリガナ大学の名称	キョウトカンゴダイガクダイガクイン 京都看護大学大学院 (Kyoto College of Nursing Graduate School)								
大学本部の位置	京都府京都市中京区壬生東高田町1番21								
大学の目的	本学は、超高齢・少子社会を迎えた我が国において、医療技術の高度化と社会ニーズの多様化に対応する専門的な学術理論及びその応用を研究教授し、高度の知識・技術・医療倫理、そして豊かな人間性を身につけ幅広い教養と国際的な視野をそなえた専門的人材を養成し、保健・医療・福祉の発展に貢献することを目的とする。								
新設学部等の目的	本学看護学研究科博士課程では、グローバルで豊かな学識をもち、独創的に自立して研究活動を行い、看護の智と実践を創造することにより、地域の人々の健康・生活・環境を支援的に開発し、看護学の発展を推進する教育研究者の育成をめざす。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	看護学研究科 [Graduate School of Nursing] 看護学専攻 [Nursing Science] 計	3年	3人	—人	9人	博士(看護学) 【Doctor of Philosophy in Nursing】	令和6年4月 第1年次	京都府京都市中京区壬生東高田超1番21	
								【基礎となる学部等】 看護学部 看護学科 看護学研究科 看護学専攻 修士課程 14条特例の実施	
同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)	令和6年4月の看護学研究科看護学専攻(博士後期課程)の設置にあわせ、修士課程を博士前期課程に課程変更(届出)する。								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程	講義	演習	実験・実習	計	12単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設課程	看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程	12人 (12)	1人 (1)	0人 (0)	0人 (0)	13人 (13)	0人 (0)	2人 (2)
		計	12 (12)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	2 (2)
	既設課程	看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程	10 (10)	8 (8)	0 (0)	— (—)	16 (16)	— (—)	— (—)
		計	10 (10)	8 (8)	0 (0)	— (—)	16 (16)	— (—)	— (—)
合計		15 (15)	8 (8)	0 (0)	— (—)	23 (23)	— (—)	— (—)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		16 (16)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	16 (16)		
	技術職員		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	図書館専門職員		1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)		
	その他の職員		0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	3 (3)		
計		17 (17)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	20 (20)		大学全体	

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	借用期間：31年 借用面積： 8911.77㎡				
	校舎敷地	8,700.06㎡	— ㎡	— ㎡	8,700.06㎡					
	運動場用地	211.71㎡	— ㎡	— ㎡	211.71㎡					
	小 計	8,911.77㎡	— ㎡	— ㎡	8,911.77㎡					
	そ の 他	— ㎡	— ㎡	— ㎡	— ㎡					
	合 計	8,911.77㎡	— ㎡	— ㎡	8,911.77㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		6,290.90 (— ㎡)	— ㎡ (— ㎡)	— ㎡ (— ㎡)	6,290.90㎡ (— ㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	7 室	9 室	4 室	1 室 (補助職員一人)	0 室 (補助職員一人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		看護学研究科 看護学専攻 (博士後期課程)		14 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での 特定不能なため、 大学全体の数		
	看護学研究科	43,800 [950] (42,339 [914])	1,915 [10] (1,715 [9])	1,700 [2] (1,549 [1])	1,000 (933)	1,900 (1,823)	50 (50)			
	計	43,800 [950] (42,339 [914])	1,915 [10] (1,715 [9])	1,700 [2] (1,549 [1])	1,000 (933)	1,900 (1,823)	50 (50)			
図書館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数			大学全体		
		268.35㎡		80	38,000					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		359.15㎡		—						
経 費 の 見 積 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	研究科全体 (図書購入費については、 電子ジャーナル経費を含む)
		教員1人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	—千円	—千円	—千円	
		共同研究費等		1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円	—千円	
		図書購入費	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円	—千円	
	設備購入費	2,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円	—千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	700千円	500千円	500千円	—千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		雑収入等								
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称 京都看護大学									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	看護学部 看護学科	4	100	—	400	学士(看護学)	1.07	平成26年度	京都府京都市中京区 壬生東高田町1-21	
	大 学 の 名 称 京都看護大学大学院									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	看護学研究科 看護学専攻 修士課程	2	7	—	14	修士(看護学)	1.07	平成30年度	京都府京都市中京区 壬生東高田町1-21	
	大 学 の 名 称 北洋大学									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	国際文化学部 キャリア創造学科	4	75	—	300	学士(国際文化学)	0.45	平成30年度	北海道苫小牧市錦 西町3丁目2番1号	
	附属施設の概要	該当なし								

教育課程等の概要															
(看護学研究科看護学専攻(D))															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	看護教育特講	1前		1		○			2						オムニバス
	量的看護研究法	1前	1			○			1						
	質的看護研究法	1前	1			○			1						
	看護概念・理論構築特講	1後		1		○			2					兼1	オムニバス
	ケアの本質と倫理特講	1後	1			○			2					兼1	オムニバス
	英語論文読解と論文作成法	1通		2		○			3						オムニバス
	小計(6科目)	—		3	4		—		4	0	0	0	0	兼2	—
専門科目	看護教育実践特講	1通		2		○			5	1					オムニバス
	看護管理特講	1通		2		○			2						オムニバス
	広域・地域保健特講	1通		2		○			3	1					オムニバス
	国際・災害看護特講	1通		2		○			2						オムニバス
	小計(4科目)	—		8		—		11	2	0	0	0	兼0	—	
研究科目	看護学特別研究Ⅰ	1通	2				○		11	1					
	看護学特別研究Ⅱ	2通	2				○		11	1					
	看護学特別研究Ⅲ	3通	2				○		11	1					
	小計(3科目)	—	6			—		11	1	0	0	0	兼0	—	
合計(13科目)		—	9	12		—		11	1	0	0	0	兼2	—	
学位又は称号	博士(看護学)		学位又は学科の分野			看護学専攻									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
本博士課程に3年以上在籍し、共通科目から必修3単位を含む5単位以上、専門科目から2単位以上、研究科目6単位の合計13単位以上を修得し、かつ、博士論文審査および最終試験に合格すること。						1学年の学期区分			2期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						

(用紙 日本産業規格A4縦型)

教 育 課 程 等 の 概 要															
(看護学研究科看護学専攻 (D))															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	看護教育特講	1前		1		○			2						オムニバス
	量的看護研究法	1前	1			○			1						
	質的看護研究法	1前	1			○			1						
	看護概念・理論構築特講	1後		1		○			2					兼1	オムニバス
	ケアの本質と倫理特講	1後		1		○			2					兼1	オムニバス
	英語論文読解と論文作成法	1通		2		○			3						オムニバス
	小計 (6 科目)	—	2	5					4	0	0	0	0	兼2	—
専門科目	看護教育実践特講	1通		2		○			6						オムニバス
	看護管理特講	1通		2		○			2						オムニバス
	広域・地域保健特講	1通		2		○			3	1					オムニバス
	国際・災害看護特講	1通		2		○			2						オムニバス
	小計 (4 科目)	—		8					12	1	0	0	0	兼0	—
研究科目	看護学特別研究Ⅰ	1通	2				○		12	1					
	看護学特別研究Ⅱ	2通	2				○		12	1					
	看護学特別研究Ⅲ	3通	2				○		12	1					
	小計 (3 科目)	—	6						12	1	0	0	0	兼0	—
合計 (13 科目)		—	8	13					12	1	0	0	0	兼2	—
学位又は称号		博士 (看護学)		学位又は学科の分野				看護学専攻							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
本博士課程に3年以上在籍し、共通科目から必修2単位を含む4単位以上、専門科目から2単位以上、研究科目6単位の合計12単位以上を修得し、かつ、博士論文審査および最終試験に合格すること。							1学年の学期区分			2期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

【添付資料3】

(新)

授業科目	ケアの本質と倫理特講	時間割コード		DNNCS02L05	
		教育課程ナンバー		DNNCS02L05	
		授業形態	単位数	必修・選択	開講年次
		講義	1	必修	1後
担当教員	武井麻子、宮林郁子、平英美				
授業目的 ・ 目標	<p>【目的】 “ケアすることの意味”を再考し、看護・医療・教育をつなぐケアの倫理について考究できる資質と能力を育成する。</p> <p>【目標】 1)ケアの多様性を看護、精神保健、倫理、社会学の視点から概観する。 2)ケアに関する国内外の研究文献・著書などから研究の動向や課題を考察する。 3)ケアの意味を捉え、看護学における取り組むべき教育・研究の意義を明らかにする。</p>				
DPとの 対応	1)ケアの多様性を学術的論理的に考究し、その成果を国内外に発信できる			◎	
	2)看護の現状と課題を洞察し、次世代を見据えて看護教育を発展させ、解決策を創出できる				
	3)多角的視点から看護現象や課題を考究し、自立した研究活動ができ、看護教育・看護実践に還元できる				
授業計画	<p>【授業概要】(オムニバス方式/全8回) 実践の科学として、看護はウェルビーイングから病にある人々、そして死に立ち会う人々のケアを担うだけでなく、すべての場、すべての対象におよぶ。ケアの多様性の観点から、文献や事例をととして、“ケアすることの意味”を再考し、看護・医療・教育をつなぐケアの倫理について考究する。</p> <p>【授業計画】 (武井 麻子/4回) 第1講:『癒し人のわざー医療の新しいあり方を求めて』(E.J.Cassel)を読む。(1) 第2講:感情労働としての看護 第3講:ケアする者へのケアー共感疲労とは何か 第4講:組織の無意識とケア (宮林 郁子/2回) 第5講:看護ケアの複雑性から派生する倫理的葛藤やそれを識別する倫理的な内省能力とは何かについて考察する。 第6講:ケアリングの事例をととして倫理的推論と臨床推論の関連性について考察する。 (平 英美/2回) 第7講:病いの語りにおける生活世界の倫理 第8講:医療の高度化とケアの未来</p>				
使用 テキスト	特に指定しない。				
参考図書	適宜紹介する。				
成績評価 基準	レポート50% ディスカッション参加50%				
事前事後 学修	事前に提示された文献等を熟読する				

【添付資料3(旧)】

(旧)

授業科目	ケアの本質と倫理特講	時間割コード		DNNCS02L05		
		教育課程ナンバー				
		授業形態	単位数	必修・選択	開講年次	
		講義	1	選択	1後	
担当教員	武井麻子、宮林郁子、平英美					
授業目的 ・ 目標	<p>【目的】 “ケアすることの意味”を再考し、看護・医療・教育をつなぐケアの倫理について考究できる資質と能力を育成する。</p> <p>【目標】 1)ケアの多様性を看護、精神保健、倫理、社会学の視点から概観する。 2)ケアに関する国内外の研究文献・著書などから研究の動向や課題を考察する。 3)ケアの意味を捉え、看護学における取り組むべき教育・研究の意義を明らかにする。</p>					
DPとの 対応	1)ケアの多様性を学術的論理的に考究し、その成果を国内外に発信できる			◎		
	2)看護の現状と課題を洞察し、次世代を見据えて看護教育を発展させ、解決策を創出できる					
	3)多角的視点から看護現象や課題を考究し、自立した研究活動ができ、看護教育・看護実践に還元できる					
授業計画	<p>【授業概要】(オムニバス方式/全8回) 実践の科学として、看護はウェルビーイングから病にある人々、そして死に立ち会う人々のケアを担うだけでなく、すべての場、すべての対象におよぶ。ケアの多様性の観点から、文献や事例をととして、“ケアすることの意味”を再考し、看護・医療・教育をつなぐケアの倫理について考究する。</p> <p>【授業計画】 (武井 麻子/4回) 第1講:『癒し人のわざー医療の新しいあり方を求めて』(E.J.Cassel)を読む。(1) 第2講:感情労働としての看護 第3講:ケアする者へのケアー共感疲労とは何か 第4講:組織の無意識とケア (宮林 郁子/2回) 第5講:看護ケアの複雑性から派生する倫理的葛藤やそれを識別する倫理的な内省能力とは何かについて考察する。 第6講:ケアリングの事例をととして倫理的推論と臨床推論の関連性について考察する。 (平 英美/2回) 第7講:病いの語りにもみる生活世界の倫理 第8講:医療の高度化とケアの未来</p>					
使用 テキスト	特に指定しない。					
参考図書	適宜紹介する。					
成績評価 基準	レポート50% ディスカッション参加50%					
事前事後 学修	事前に提示された文献等を熟読する					

【添付資料4】

カリキュラムマップ

(新)

【資料1-8】

アドミッションポリシー	カリキュラムポリシー		1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	ディプロマポリシー	養成する人材像
<p>本学の建学の精神および教育目的を基に、ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーの教育目標の達成のために、入学者に求める能力や資質をアドミッションポリシーを次のとおり定める。</p>	<p>ディプロマポリシーを踏まえて、次のとおりカリキュラムポリシーを定める。</p>								<p>次の通りディプロマポリシーを定める。 なお、修了に必要な単位を修得し、かつ研究指導を受けたうえで学位論文の審査および最終試験に合格した者に博士(看護学)の学位を授与する。</p>	<p>看護の智と実践を創出できる次の要素を備えた教育研究者を養成する。</p>
<p>AP1 看護学を発展させ人々に最善の利益をもたらすために、国内外において貢献しようとする意思を有する者</p>	<p>CP1 ケアの多様性を学術的論理的に考究し、国内外に発信するための知識とアプローチの方法を修得させる科目を配置する</p>	<p>共通科目</p>	看護教育特講						<p>DP1 ケアの多様性を学術的論理的に考究し、その成果を国内外に発信できる</p>	<p>グローバルで豊かな学識をもち、本学の教育理念に根付いたいっしょの力をもって看護及び社会の発展に寄与できる</p>
			量的看護研究法							
			質的看護研究法							
			看護概念・理論構築特講							
			ケアの本質と倫理特講							
英語論文読解と論文作成法										
<p>AP2 人々の健康・生活向上および看護学の発展に繋がる看護学の専門的知識と論理的思考を有する者</p>	<p>CP2 看護の現状と課題を洞察し、次世代を見据えて看護教育を発展させるために、解決策を創出するために必要な批判的思考および俯瞰的な捉え方を育成する科目を配置する</p>	<p>専門科目</p>	看護教育実践特講					<p>DP2 看護の現状と課題を洞察し、次世代を見据えて看護教育を発展させ、解決策を創出できる</p>	<p>地域の人々の健康・生活・環境の向上を支援できる</p>	
			看護管理特講							
			広域・地域保健特講							
			国際・災害看護特講							
<p>AP3 看護実践における様々な現象を見極めるために教育と研究に必要な基礎的研究能力を有する者</p>	<p>CP3 自立した研究活動を行うための研究者としての資質、および多角的視点から看護現象や課題を考究し、看護教育・看護実践の発展に寄与するために必要な知識と技能を育成する科目を配置する</p>	<p>研究科目</p>	看護学特別研究Ⅰ					<p>DP3 多角的視点から看護現象や課題を考究し、自立した研究活動ができ、看護教育・看護実践に還元できる</p>	<p>養成3 自立して研究活動を推進し、エビデンスに基づいた看護の智と実践を創出できる</p>	
			看護学特別研究Ⅱ							
			審査意見への対応を記載した書類(6月)(資料)-10-				看護学特別研究Ⅲ			

【添付資料4】

カリキュラムマップ

(旧)

【資料1-8】

アドミッションポリシー	カリキュラムポリシー		1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	ディプロマポリシー	養成する人材像
<p>本学の建学の精神および教育目的を基に、ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーの教育目標の達成のために、入学者に求める能力や資質をアドミッションポリシーを次のとおり定める。</p>	<p>ディプロマポリシーを踏まえて、次のとおりカリキュラムポリシーを定める。</p>								<p>次の通りディプロマポリシーを定める。 なお、修了に必要な単位を修得し、かつ研究指導を受けたうえで学位論文の審査および最終試験に合格した者に博士(看護学)の学位を授与する。</p>	<p>看護の智と実践を創出できる次の要素を備えた教育研究者を養成する。</p>
<p>AP1 看護学を発展させ人々に最善の利益をもたらすために、国内外において貢献しようとする意思を有する者</p>	<p>CP1 ケアの多様性を学術的論理的に考究し、国内外に発信するための知識とアプローチの方法を修得させる</p>	<p>共通科目</p>	看護教育特講						<p>DP1 ケアの多様性を学術的論理的に考究し、その成果を国内外に発信できる</p>	<p>グローバルで豊かな学識をもち、本学の教育理念に根付いたいづくしむ力をもって看護及び社会の発展に寄与できる</p>
			量的看護研究法							
			質的看護研究法							
			看護概念・理論構築特講							
			ケアの本質と倫理特講							
英語論文読解と論文作成法										
<p>AP2 人々の健康・生活向上および看護学の発展に繋がる教看護学の専門的知識と論理的思考を有する者</p>	<p>CP2 看護の現状と課題を洞察し、次世代を見据えて看護教育を発展させるために、解決策を創出するに必要な批判的思考および俯瞰的な捉え方を育成する</p>	<p>専門科目</p>	看護教育実践特講					<p>DP2 看護の現状と課題を洞察し、次世代を見据えて看護教育を発展させ、解決策を創出できる</p>	<p>地域の人々の健康・生活・環境の向上を支援できる</p>	
			看護管理特講							
			広域・地域保健特講							
			国際・災害看護特講							
<p>AP3 看護実践における様々な現象を見極めるために教育と研究に必要な基礎的研究能力を有する者</p>	<p>CP3 自立した研究活動を行うための研究者としての資質、および多角的視点から看護現象や課題を考究し、看護教育・看護実践の発展に寄与する博士論文作成に必要な知識と技能を育成する</p>	<p>研究科目</p>	看護学特別研究Ⅰ					<p>DP3 多角的視点から看護現象や課題を考究し、自立した研究活動ができ、看護教育・看護実践に還元できる</p>	<p>養成3 自立して研究活動を推進し、エビデンスに基づいた看護の智と実践を創出できる</p>	
			看護学特別研究Ⅱ							
			審査意見への対応を記載した書類(6月)(資料)-11-				看護学特別研究Ⅲ			

【添付資料5】

(新)

【資料3-1】

教育課程の構成

科目区分 (修了単位要件)	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態
			必修	選択	
共通科目 (必修科目 3 科目 3 単位、 選択科目 3 科目 4 単位中 2 単 位以上)	看護教育特講	1年次前期		1	講義
	量的看護研究法	1年次前期	1		講義
	質的看護研究法	1年次前期	1		講義
	看護概念・理論構築特講	1年次後期		1	講義
	ケアの本質と倫理特講	1年次後期	1		講義
	英語論文読解と論文作成法	1年次通年		2	講義
専門科目 (選択科目 4 科目 8 単位から 2 単位以上)	看護教育実践特講	1年次通年		2	講義
	看護管理特講	1年次通年		2	講義
	広域・地域保健特講	1年次通年		2	講義
	国際・災害看護特講	1年次通年		2	講義
研究科目 (必修科目 3 科目 6 単位)	看護学特別研究 I	1年次通年	2		演習
	看護学特別研究 II	2年次通年	2		演習
	看護学特別研究 III	3年次通年	2		演習

【添付資料5(旧)】

(旧)

【資料3-1】

教育課程の構成

科目区分 (修了単位要件)	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態
			必修	選択	
共通科目 (必修科目2科目2単位、 選択科目4科目5単位中2単位以上)	看護教育特講	1年次前期		1	講義
	量的看護研究法	1年次前期	1		講義
	質的看護研究法	1年次前期	1		講義
	看護概念・理論構築特講	1年次後期		1	講義
	ケアの本質と倫理特講	1年次後期		1	講義
	英語論文読解と論文作成法	1年次通年		2	講義
専門科目 (選択科目4科目8単位から 2単位以上)	看護教育実践特講	1年次通年		2	講義
	看護管理特講	1年次通年		2	講義
	広域・地域保健特講	1年次通年		2	講義
	国際・災害看護特講	1年次通年		2	講義
研究科目 (必修科目3科目6単位)	看護学特別研究Ⅰ	1年次通年	2		演習
	看護学特別研究Ⅱ	2年次通年	2		演習
	看護学特別研究Ⅲ	3年次通年	2		演習

(新)

【添付資料6】

【資料4-2】

履修モデル

1 履修モデル例

科目区分	授業科目	年次 配当	単位数		1年次	2年次	3年次	
			必修	選択				
共通科目	看護教育特講	1前		1	→			
	量的看護研究法	1前	1		→			
	質的看護研究法	1前	1		→			
	ケアの本質と倫理特講	1後	1			→		
	看護概念・理論構築特講	1後		1		→		
専門科目	看護教育実践特講	1通		2	→			
研究科目	看護学特別研究Ⅰ	1通	2		→			
	看護学特別研究Ⅱ	2通	2			→		
	看護学特別研究Ⅲ	3通	2				→	
合計単位数				9	4			
<p>【修得できる能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアの多様性を学術的論理的に考究し、その成果を国内外に発信できる力 ・さまざまな看護領域における現状と課題を多面的視点から検証し、次世代を見据えた看護教育を 発展させ、解決策を創出し、看護教育・看護実践に還元できる力 <p>【期待される人材像】</p> <p>保健医療福祉分野における様々なヘルスケアに関する課題を多面的視点から検証し、解決策を創出 できる看護教育研究者</p> <p>【修了後の進路】</p> <p>大学等における看護教育研究者</p>								

2 履修モデル例

科目区分	授業科目	年次 配当	単位数		1年次	2年次	3年次	4年次
			必修	選択				
共通科目	量的看護研究法	1前	1		→			
	質的看護研究法	1前	1		→			
	ケアの本質と倫理特講	1後	1			→		
	看護概念・理論構築特講	1後		1		→		
	英語論文読解と論文作成法	1通		2		→		
専門科目	広域・地域保健特講	1通		2		→		
特別研究	看護学特別研究Ⅰ	1通	2		→			
	看護学特別研究Ⅱ	2通	2				→	
	看護学特別研究Ⅲ	3通	2					→
合計単位数				9	5			
<p>【修得できる能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアの多様性を学術的論理的に考究し、その成果を国内外に発信できる力 ・さまざまなヘルスケア領域における現状と課題を多面的視点から検証し、次世代を見据えた看護 教育を発展させ、解決策を創出し、看護教育・看護実践に還元できる力 <p>【期待される人材像】</p> <p>保健医療福祉分野における様々なヘルスケアに関する課題を多面的視点から検証し、解決策を創出 できる看護教育研究者</p> <p>【修了後の進路】</p> <p>大学等における看護教育研究者</p>								

(旧)

【添付資料6】

【資料4-2】

履修モデル

1 履修モデル例

科目区分	授業科目	年次 配当	単位数		1年次	2年次	3年次	
			必修	選択				
共通科目	看護教育特講	1前		1	→			
	量的看護研究法	1前	1		→			
	質的看護研究法	1前	1		→			
	看護概念・理論構築特講	1後		1	→			
専門科目	看護教育実践特講	1通		2	→			
研究科目	看護学特別研究Ⅰ	1通	2		→			
	看護学特別研究Ⅱ	2通	2			→		
	看護学特別研究Ⅲ	3通	2				→	
合計単位数				8	4			
<p>【修得できる能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアの多様性を学術的論理的に考究し、その成果を国内外に発信できる力 ・さまざまな看護領域における現状と課題を多面的視点から検証し、次世代を見据えた看護教育を 発展させ、解決策を創出し、看護教育・看護実践に還元できる力 <p>【期待される人材像】</p> <p>保健医療福祉分野における様々なヘルスケアに関する課題を多面的視点から検証し、解決策を創出 できる看護教育研究者</p> <p>【修了後の進路】</p> <p>大学等における看護教育研究者</p>								

2 履修モデル例

科目区分	授業科目	年次 配当	単位数		1年次	2年次	3年次	4年次
			必修	選択				
共通科目	量的看護研究法	1前	1		→			
	質的看護研究法	1前	1		→			
	看護概念・理論構築特講	1後		1	→			
	英語論文読解と論文作成法	1通		2	→			
専門科目	広域・地域保健特講	1通		2		→		
特別研究	看護学特別研究Ⅰ	1通	2		→			
	看護学特別研究Ⅱ	2通	2				→	
	看護学特別研究Ⅲ	3通	2					→
合計単位数			8	5				
<p>【修得できる能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアの多様性を学術的論理的に考究し、その成果を国内外に発信できる力 ・さまざまなヘルスケア領域における現状と課題を多面的視点から検証し、次世代を見据えた看護 教育を発展させ、解決策を創出し、看護教育・看護実践に還元できる力 <p>【期待される人材像】</p> <p>保健医療福祉分野における様々なヘルスケアに関する課題を多面的視点から検証し、解決策を創出 できる看護教育研究者</p> <p>【修了後の進路】</p> <p>大学等における看護教育研究者</p>								

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻 (D))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	看護教育実践特 講	<p>(概要) 看護教育実践について多方面の視野から捉え、看護教育の現状と課題を検討し、教育実践の向上に向けた課題解決の方法を考究する。また、クリティカルケア看護、看護教育、高齢者看護、精神看護、看護基礎教育および卒後教育の観点から看護教育実践について討議する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (2 田口 豊恵/3回) クリティカルケア看護に関する現状と課題を検討し、主要概念と理論およびサーカディアンリズムの調整に向けた補完代替療法を用いた教育実践の向上に向けた問題解決方法について考究する。</p> <p>(4 津波古 澄子/3回) 看護教育の現状と課題を検討し、学生の批判的思考の育成への教育的支援の課題の解決にむけて、国内外の文献を通して教育トランスフォーメーションを考察する。</p> <p>(5 武井 麻子/3回) 文献をもとに、教育における指導関係のダイナミクスを精神分析的視点から理解する方法を学び、自らの教育実践を振り返り分析・考察する。</p> <p>(9 宮林 郁子/2回) 国内外の文献から看護学基礎教育および卒後教育におけるデリゲーション能力の育成を中心にその現状と課題を明らかにして、課題解決の方略についてディスカッションを行う。</p> <p>(10 井上 深幸/2回) 高齢者の健康生活に関する現状と課題を検討し、課題解決の方法を考究する。また、看護・保健・福祉の観点から地域で暮らす高齢者の健康教育と看護教育実践について論じる。</p> <p>(1 宇野 真由美/2回) 日本文化を背景とした人間関係と患者・看護師間のコンフリクトについて考察をする。臨床経験が少ない看護師の思考パターンに基づき、コンフリクトが脅威となることを明確化し、その解決にむけたゲーミフィケーションを用いた臨床教育法の有用性に関して討議する。</p>	

研究 科 目	看護学特別研究 I	<p>(概要) 学生のこれまでの研究の取り組みを踏まえて研究テーマを選択し、研究計画書立案作成のプロセスを通して研究能力を修得できるように教育指導する。なお、研究計画作成にあたり文献の批判的検討をおおしてテーマに関連する研究課題を明確にするために文献レビューあるいは概念分析をおこない、研究疑問、研究目的、研究デザイン、看護研究倫理に基づく研究方法について、その妥当性、信頼性、一貫性を多面的に検討する。</p> <p>(1 菅田 勝也) 看護管理の現状について、先行研究や公共機関等から発せられている情報を俯瞰することによって幅広い知識を修得してリサーチクエストを導き出し、仮説を設定し、その検証に必要なデータを生成することが可能となる研究方法の検討を行い、研究計画書を立案することを指導する。</p> <p>(2 田口 豊恵) クリティカルな状態にある患者へのサーカディアンリズムの調整を目的とした補充代替療法を用いた教育実践プログラムの開発に向けて、研究課題を明確にするための文献レビューを行い、研究疑問、研究目的、研究デザイン等の研究方法の検討を経て、研究計画書作成のための教育指導を行う。</p> <p>(3 小原 真理子) 災害・国際看護学に関する文献検索、文献クリティーク、文献レビューの方法について指導し、フィールドの選定を行い、研究目的や研究方法について検討しながら、研究計画書の作成について指導する。</p> <p>(4 津波古 澄子) 看護教育の課題および批判的思考の育成の教育的支援について、またロイ適応看護理論に基づいた研究を概観する文献レビューあるいは概念分析を行い、研究課題を明確にし、研究計画書の作成に向けて教育指導する。</p> <p>(5 武井 麻子) 精神看護における現在抱えている問題意識を言語化し、テーマを決定できるように指導する。そのテーマに関連する先行研究や文献などをレビューし、研究テーマと研究方法について検討し、研究計画書を作成できるように指導する。</p> <p>(6 高木 廣文) 国際保健に関して量的研究における概念の尺度化のために必要とされる文献検討と概念分析の方法、および量的研究における研究目的、研究疑問および研究デザインとの関係について教育し、とくに尺度構成法における統計学的信頼性と妥当性について教育し、科学的エビデンスのある研究を行うための研究計画書を作成できるように指導する。</p> <p>(7 波多野 浩道) 地域保健における文献レビューのプロセス（課題設定、文献検索、内容検討、文献統合、論文執筆）を指導する。研究疑問を洗練するために、テーマを俯瞰できる樹形図、関連図法、研究デザインに有用なフレームワークを教育し、研究計画書の作成を指導する。</p>
--------------	--------------	--

研究科目	看護学特別研究 I	<p>(8 磯邊 厚子) 国際看護学の観点から途上国の女性と子どもの健康課題について、幅広く情報収集、文献レビューを行い、研究テーマに関わる概念を学際的、批判的に検討、明確化し、エビデンスに基づく研究計画書の作成を指導する。</p> <p>(9 宮林 郁子) 看護教育や臨床看護管理における倫理的課題について、国内外の文献をシステマティックにレビューし、研究課題に応じた研究方法を選択し、研究計画書作成を指導する。</p> <p>(10 井上 深幸) 高齢者の健康生活について、地域における認知症高齢者支援の国内外の文献レビューをおこない、研究疑問、研究目的、研究デザイン、研究方法について検討し、研究計画書の作成を教育指導する。</p> <p>(11 滝澤 寛子) 個人・家族から地域全体の健康づくりを推進するための評価ツール・尺度開発、特に、健康な地域づくりを目指す住民組織の育成と活動支援方法に関するテーマを中心に、学生が自らの研究課題を明確にし、研究計画書を作成できるよう指導する。</p> <p>(13 河田 志帆) 健康づくりを推進する地域保健活動の視点から、国内外の文献レビュー、概念分析、評価方法や介入方法、とりわけ個人や集団の保健行動に関する知見や動向を考察し、学生が自らの研究課題を明確にし、その解決に向けた研究計画書の作成に向けて指導する。</p>	
	看護学特別研究 II	<p>(概要) 共通科目や各専門科目、「看護学特別研究 I」で取り組んできた内容を発展させ、研究計画に基づいて自立的に研究活動に取り組み、フィールドデータの収集および研究で得られたデータを分析し、その成果を多角的視点から考察して中間発表に取り組めるように教育指導する。研究成果を創出するプロセスをとおして、教育研究者に必要な研究能力を育成する。</p> <p>(1 菅田 勝也) 看護管理に関する研究計画に基づいて、データの収集と解析を行い、仮説検証の論拠となる結果をまとめ、考察につなげて中間発表のための資料作成やプレゼンテーション等について指導する。</p> <p>(2 田口 豊恵) 研究計画に基づいて、クリティカルケアの場におけるデータ収集およびデータ分析を行い、得られた成果を多角的視点から考察し、中間発表に取り組めるよう教育指導する。</p> <p>(3 小原 真理子) 災害・国際看護学に関する研究計画に基づいて、データ収集、分析を行い、結果についてディスカッションし、中間発表に取り組めるよう教育指導する。</p> <p>(4 津波古 澄子) 看護教育の課題解決、批判的思考の育成およびロイ適応看護理論に関する研究計画に基づいて、データ収集およびデータ分析を行い、得られた成果を多角的に考察し、中間発表に取り組めるように教育指導する。</p>	

研究 科 目	看護学特別研究 II	<p>(5 武井 麻子) 精神看護に関連する研究計画に基づき、データ収集を行いデータ分析し、その結果について考察を加え、中間発表に向けて指導する。</p> <p>(6 高木 廣文) 国際保健学の視点から途上国などの健康問題について異文化理解を通して、研究目的に対応した質問紙を作成し、現地調査による科学的なデータ収集を実施できるように指導する。得られたデータに対して推測統計学を中心とする量的データの解析方法を行えるように指導し、分析結果とその適切な解釈を通して中間発表できるように教育指導する。</p> <p>(7 波多野 浩道) 地域保健に関連する研究計画に基づき、データ収集を行い最適な分析手法を選択し、データ分析の結果に考察を加え、中間発表に取り組めるように指導する。</p> <p>(8 磯邊 厚子) 国際看護学の観点から途上国の女性と子どもの健康課題に関連する研究計画に基づいてフィールド調査を実施し、統計学的に分析し、エビデンスに基づいて研究をまとめ、中間発表に向けて指導する。</p> <p>(9 宮林 郁子) 看護教育や臨床看護管理における倫理的な課題またはそれから派生する課題に関する研究計画に基づいて、データ収集と分析を行い、中間発表に向けて指導する。</p> <p>(10 井上 深幸) 高齢者の健康生活に関する研究計画に基づいたデータの収集及び得られたデータの分析を行い、その成果を多角的視点から考察して中間発表に取り組めるように教育指導する。</p> <p>(11 滝澤 寛子) 個人・家族から地域全体の健康づくりを推進するための住民組織の育成と活動支援方法に関するテーマを中心に、研究計画に基づいてデータの収集と分析、考察を行い、中間発表に取り組めるように指導する。</p> <p>(13 河田 志帆) 地域保健活動、とりわけ個人や集団の保健行動に関する研究計画に基づいて、データ収集および分析を行い、結果に考察を加え中間発表に向けた指導を行う。</p>	
--------------	---------------	--	--

看護学特別研究
Ⅲ

(概要) 博士論文の作成に向けて、看護学特別研究Ⅱで得られた成果を推敲し、学術性と独創性を備えた博士論文として作成できるように教育指導する。また、博士論文をまとめ、論文審査および発表のプロセスをとおして創造的に自立した研究活動を行い、エビデンスに基づいた看護教育・研究者としての資質と能力を育成する。

(1 菅田 勝也)

看護管理上の問題を根拠に基づいて解決し、人々の健康に寄与する考察を論理的に記述し展開することができるように博士論文の作成を指導し、自立して研究を行うことができ、看護教育を担い、看護学の発展に貢献する能力を育成する。

(2 田口 豊恵)

看護学特別研究Ⅱで得らえた成果を基に考察を重ね、クリティカルケアとサーカディアンリズムの調整を目的とした補完代替療法の教育実践プログラムの開発に向けて創造的に論文作成を教育指導する。

(3 小原 真理子)

災害・国際看護学に関する、フィールドワークで得られたデータの分析結果を推敲し、エビデンスに基づいた博士論文の作成を通じて看護教育・研究者としての資質と能力を育成し、看護学と社会に貢献できるように指導する。

(4 津波古 澄子)

看護教育の課題や批判的思考の育成およびロイ看護理論について、研究成果を推敲し、創造的に学位論文作成およびプロセスをとおして、国内外に発信できる教育研究者としての資質と能力を育成するように教育指導する。

(5 武井 麻子)

精神看護学研究に関する成果を推敲し、独創的な博士論文の作成を指導し、自立して研究を行うプロセスを通して、看護学の発展に貢献する能力を育成する。

(6 高木 廣文)

国際保健学の研究成果について、統計学的有意性による適切な解釈を行い、文献的考察を通して科学的なエビデンスをもたらす研究論文となるように推敲し、論文審査や学術論文としての発表に必要な資料作成が自立してできるように教育指導する。

(7 波多野 浩道)

地域保健学に関する研究の結果を推敲し、学術的および独創的な博士論文の作成プロセスを通して、地域保健学の発展に貢献する能力を育成する。

(8 磯邊 厚子)

途上国の女性と子どもの健康課題について、独創的な博士論文の作成を指導する。さらに論文作成を通じて国際看護学の発展に寄与する教育研究者を育成する。

(9 宮林 郁子)

看護教育、臨床看護管理における倫理的課題やそれに派生した課題について、中間発表の成果を推敲し、博士論文の作成とそのプロセスを通じて教育研究者を育成する。

<p>研究 科 目</p>	<p>看護学特別研究 Ⅲ</p>	<p>(10 井上 深幸) 高齢者の地域における健康生活に関する看護学特別研究Ⅱで得られたデータの分析や考察の推敲を行い、学術性と独創性を備えた博士論文として作成できるように教育指導する。</p> <p>(11 滝澤 寛子) 個人・家族から地域全体の健康づくりを推進するための研究成果を推敲し論文作成を行い、そのプロセスを通して地域保健学の発展に寄与できる自立した教育研究者を育成する。</p> <p>(13 河田 志帆) 地域保健活動に関する看護学特別研究Ⅱで得られた研究結果を推敲し、博士論文の作成を通じて地域保健学の発展に寄与する自立した研究活動ができるよう教育指導する。</p>	
-----------------------	----------------------	---	--

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻 (D))			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護教育実践特講	<p>(概要) 看護教育実践について多方面の視野から捉え、看護教育の現状と課題を検討し、教育実践の向上に向けた課題解決の方法を考究する。また、クリティカルケア看護、看護教育、高齢者看護、精神看護、看護基礎教育および卒後教育の観点から看護教育実践について討議する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (2 田口 豊恵/3回) クリティカルケア看護に関する現状と課題を検討し、主要概念と理論およびサーカディアンリズムの調整に向けた補完代替療法を用いた教育実践の向上に向けた問題解決方法について考究する。</p> <p>(4 津波古 澄子/3回) 看護教育の現状と課題を検討し、学生の批判的思考の育成への教育的支援の課題の解決にむけて、国内外の文献を通して教育トランスフォーメーションを考察する。</p> <p>(5 武井 麻子/3回) 文献をもとに、教育における指導関係のダイナミクスを精神分析的視点から理解する方法を学び、自らの教育実践を振り返り分析・考察する。</p> <p>(9 宮林 郁子/2回) 国内外の文献から看護学基礎教育および卒後教育におけるデリゲーション能力の育成を中心にその現状と課題を明らかにして、課題解決の方略についてディスカッションを行う。</p> <p>(10 井上 深幸/2回) 高齢者の健康生活に関する現状と課題を検討し、課題解決の方法を考究する。また、看護・保健・福祉の観点から地域で暮らす高齢者の健康教育と看護教育実践について論じる。</p> <p>(12 宇野 真由美/2回) 日本文化を背景とした人間関係と患者・看護師間のコンフリクトについて考察をする。臨床経験が少ない看護師の思考パターンに基づき、コンフリクトが脅威となることを明確化し、その解決にむけたゲーミフィケーションを用いた臨床教育法の有用性に関して討議する。</p>	

研究科目	看護学特別研究 I	<p>(概要) 学生のこれまでの研究の取り組みを踏まえて研究テーマを選択し、研究計画書立案作成のプロセスを通して研究能力を修得できるように教育指導する。なお、研究計画作成にあたり文献の批判的検討をおおしてテーマに関連する研究課題を明確にするために文献レビューあるいは概念分析をおこない、研究疑問、研究目的、研究デザイン、看護研究倫理に基づく研究方法について、その妥当性、信頼性、一貫性を多面的に検討する。</p> <p>(1 菅田 勝也) 看護管理の現状について、先行研究や公共機関等から発せられている情報を俯瞰することによって幅広い知識を修得してリサーチクエストを導き出し、仮説を設定し、その検証に必要なデータを生成することが可能となる研究方法の検討を行い、研究計画書を立案することを指導する。</p> <p>(2 田口 豊恵) クリティカルな状態にある患者へのサーカディアンリズムの調整を目的とした補完代替療法を用いた教育実践プログラムの開発に向けて、研究課題を明確にするための文献レビューを行い、研究疑問、研究目的、研究デザイン等の研究方法の検討を経て、研究計画書作成のための教育指導を行う。</p> <p>(3 小原 真理子) 災害・国際看護学に関する文献検索、文献クリティーク、文献レビューの方法について指導し、フィールドの選定を行い、研究目的や研究方法について検討しながら、研究計画書の作成について指導する。</p> <p>(4 津波古 澄子) 看護教育の課題および批判的思考の育成の教育的支援について、またロイ適応看護理論に基づいた研究を概観する文献レビューあるいは概念分析を行い、研究課題を明確にし、研究計画書の作成に向けて教育指導する。</p> <p>(5 武井 麻子) 精神看護における現在抱えている問題意識を言語化し、テーマを決定できるように指導する。そのテーマに関連する先行研究や文献などをレビューし、研究テーマと研究方法について検討し、研究計画書を作成できるように指導する。</p> <p>(6 高木 廣文) 国際保健に関して量的研究における概念の尺度化のために必要とされる文献検討と概念分析の方法、および量的研究における研究目的、研究疑問および研究デザインとの関係について教育し、とくに尺度構成法における統計学的信頼性と妥当性について教育し、科学的エビデンスのある研究を行うための研究計画書を作成できるように指導する。</p> <p>(7 波多野 浩道) 地域保健における文献レビューのプロセス（課題設定、文献検索、内容検討、文献統合、論文執筆）を指導する。研究疑問を洗練するために、テーマを俯瞰できる樹形図、関連図法、研究デザインに有用なフレームワークを教育し、研究計画書の作成を指導する。</p>
------	--------------	--

研究科目	看護学特別研究 I	<p>(8 磯邊 厚子) 国際看護学の観点から途上国の女性と子どもの健康課題について、幅広く情報収集、文献レビューを行い、研究テーマに関わる概念を学際的、批判的に検討、明確化し、エビデンスに基づく研究計画書の作成を指導する。</p> <p>(9 宮林 郁子) 看護教育や臨床看護管理における倫理的課題について、国内外の文献をシステマティックにレビューし、研究課題に応じた研究方法を選択し、研究計画書作成を指導する。</p> <p>(10 井上 深幸) 高齢者の健康生活について、地域における認知症高齢者支援の国内外の文献レビューをおこない、研究疑問、研究目的、研究デザイン、研究方法について検討し、研究計画書の作成を教育指導する。</p> <p>(11 滝澤 寛子) 個人・家族から地域全体の健康づくりを推進するための評価ツール・尺度開発、特に、健康な地域づくりを目指す住民組織の育成と活動支援方法に関するテーマを中心に、学生が自らの研究課題を明確にし、研究計画書を作成できるよう指導する。</p> <p>(12 宇野 真由美) 看護師と患者のコンフリクトに焦点を当て、課題を明確にするために文献レビュー、概念分析をおこない、研究計画書の作成に向けて教育指導する。</p> <p>(13 河田 志帆) 健康づくりを推進する地域保健活動の視点から、国内外の文献レビュー、概念分析、評価方法や介入方法、とりわけ個人や集団の保健行動に関する知見や動向を考察し、学生が自らの研究課題を明確にし、その解決に向けた研究計画書の作成に向けて指導する。</p>	
	看護学特別研究 II	<p>(概要) 共通科目や各専門科目、「看護学特別研究 I」で取り組んできた内容を発展させ、研究計画に基づいて自立的に研究活動に取り組み、フィールドデータの収集および研究で得られたデータを分析し、その成果を多角的視点から考察して中間発表に取り組めるように教育指導する。研究成果を創出するプロセスをとおして、教育研究者に必要な研究能力を育成する。</p> <p>(1 菅田 勝也) 看護管理に関する研究計画に基づいて、データの収集と解析を行い、仮説検証の論拠となる結果をまとめ、考察につなげて中間発表のための資料作成やプレゼンテーション等について指導する。</p> <p>(2 田口 豊恵) 研究計画に基づいて、クリティカルケアの場におけるデータ収集およびデータ分析を行い、得られた成果を多角的視点から考察し、中間発表に取り組めるよう教育指導する。</p> <p>(3 小原 真理子) 災害・国際看護学に関する研究計画に基づいて、データ収集、分析を行い、結果についてディスカッションし、中間発表に取り組めるよう教育指導する。</p> <p>(4 津波古 澄子) 看護教育の課題解決、批判的思考の育成およびロイ適応看護理論に関する研究計画に基づいて、データ収集およびデータ分析を行い、得られた成果を多角的に考察し、中間発表に取り組めるように教育指導する。</p>	

研究 科 目	看護学特別研究 II	<p>(5 武井 麻子) 精神看護に関連する研究計画に基づき、データ収集を行いデータ分析し、その結果について考察を加え、中間発表に向けて指導する。</p> <p>(6 高木 廣文) 国際保健学の視点から途上国などの健康問題について異文化理解を通して、研究目的に対応した質問紙を作成し、現地調査による科学的なデータ収集を実施できるように指導する。得られたデータに対して推測統計学を中心とする量的データの解析方法を行えるように指導し、分析結果とその適切な解釈を通して中間発表できるように教育指導する。</p> <p>(7 波多野 浩道) 地域保健に関連する研究計画に基づき、データ収集を行い最適な分析手法を選択し、データ分析の結果に考察を加え、中間発表に取り組めるように指導する。</p> <p>(8 磯邊 厚子) 国際看護学の観点から途上国の女性と子どもの健康課題に関連する研究計画に基づいてフィールド調査を実施し、統計学的に分析し、エビデンスに基づいて研究をまとめ、中間発表に向けて指導する。</p> <p>(9 宮林 郁子) 看護教育や臨床看護管理における倫理的な課題またはそれから派生する課題に関する研究計画に基づいて、データ収集と分析を行い、中間発表に向けて指導する。</p> <p>(10 井上 深幸) 高齢者の健康生活に関する研究計画に基づいたデータの収集及び得られたデータの分析を行い、その成果を多角的視点から考察して中間発表に取り組めるように教育指導する。</p> <p>(11 滝澤 寛子) 個人・家族から地域全体の健康づくりを推進するための住民組織の育成と活動支援方法に関するテーマを中心に、研究計画に基づいてデータの収集と分析、考察を行い、中間発表に取り組めるように指導する。</p> <p>(12 宇野 真由美) 看護師と患者のコンフリクトに関する研究計画に基づき、フィールドデータの収集および研究で得られたデータを分析し、その成果を多角的視点から考察して中間発表に向けた指導を行う。</p> <p>(13 河田 志帆) 地域保健活動、とりわけ個人や集団の保健行動に関する研究計画に基づいて、データ収集および分析を行い、結果に考察を加え中間発表に向けた指導を行う。</p>	
--------------	---------------	---	--

研究 科 目	看護学特別研究 Ⅲ	<p>(概要) 博士論文の作成に向けて、看護学特別研究Ⅱで得られた成果を推敲し、学術性と独創性を備えた博士論文として作成できるように教育指導する。また、博士論文をまとめ、論文審査および発表のプロセスをとおして創造的に自立した研究活動を行い、エビデンスに基づいた看護教育・研究者としての資質と能力を育成する。</p> <p>(1 菅田 勝也) 看護管理上の問題を根拠に基づいて解決し、人々の健康に寄与する考察を論理的に記述し展開することができるように博士論文の作成を指導し、自立して研究を行うことができ、看護教育を担い、看護学の発展に貢献する能力を育成する。</p> <p>(2 田口 豊恵) 看護学特別研究Ⅱで得らえた成果を基に考察を重ね、クリティカルケアとサーカディアンリズムの調整を目的とした補完代替療法の教育実践プログラムの開発に向けて創造的に論文作成を教育指導する。</p> <p>(3 小原 真理子) 災害・国際看護学に関する、フィールドワークで得られたデータの分析結果を推敲し、エビデンスに基づいた博士論文の作成を通じて看護教育・研究者としての資質と能力を育成し、看護学と社会に貢献できるように指導する。</p> <p>(4 津波古 澄子) 看護教育の課題や批判的思考の育成およびロイ看護理論について、研究成果を推敲し、創造的に学位論文作成およびプロセスをとおして、国内外に発信できる教育研究者としての資質と能力を育成するように教育指導する。</p> <p>(5 武井 麻子) 精神看護学研究に関する成果を推敲し、独創的な博士論文の作成を指導し、自立して研究を行うプロセスを通して、看護学の発展に貢献する能力を育成する。</p> <p>(6 高木 廣文) 国際保健学の研究成果について、統計学的有意性による適切な解釈を行い、文献的考察を通して科学的なエビデンスをもたらす研究論文となるように推敲し、論文審査や学術論文としての発表に必要な資料作成が自立してできるように教育指導する。</p> <p>(7 波多野 浩道) 地域保健学に関する研究の結果を推敲し、学術的および独創的な博士論文の作成プロセスを通して、地域保健学の発展に貢献する能力を育成する。</p> <p>(8 磯邊 厚子) 途上国の女性と子どもの健康課題について、独創的な博士論文の作成を指導する。さらに論文作成を通じて国際看護学の発展に寄与する教育研究者を育成する。</p> <p>(9 宮林 郁子) 看護教育、臨床看護管理における倫理的課題やそれに派生した課題について、中間発表の成果を推敲し、博士論文の作成とそのプロセスを通じて教育研究者を育成する。</p>
--------------	--------------	---

<p>研究 科 目</p>	<p>看護学特別研究 Ⅲ</p>	<p>(10 井上 深幸) 高齢者の地域における健康生活に関する看護学特別研究Ⅱで得られたデータの分析や考察の推敲を行い、学術性と独創性を備えた博士論文として作成できるように教育指導する。</p> <p>(11 滝澤 寛子) 個人・家族から地域全体の健康づくりを推進するための研究成果を推敲し論文作成を行い、そのプロセスを通して地域保健学の発展に寄与できる自立した教育研究者を育成する。</p> <p>(12 宇野 真由美) 看護師と患者のコンフリクトに関する研究結果を推敲し、学術性と独創性を備えた博士論文を作成できるように指導し、そのプロセスを通して自立した教育研究者を育成する。</p> <p>(13 河田 志帆) 地域保健活動に関する看護学特別研究Ⅱで得られた研究結果を推敲し、博士論文の作成を通じて地域保健学の発展に寄与する自立した研究活動ができるよう教育指導する。</p>	
-----------------------	----------------------	--	--

【添付資料8】

(新)

授業科目	看護学特別研究 I	時間割コード		DNNRS01E01		
		教育課程ナンバー		DNNRS01E01		
		授業形態	単位数	必修・選択	開講年次	
		演習	2	必修	1通	
担当教員	菅田勝也、田口豊恵、小原真理子、津波古澄子、武井麻子、高木廣文、波多野浩道、磯邊厚子、宮林郁子、井上深幸、滝澤寛子、河田志帆					
授業目的 ・ 目標	<p>【目的】 研究テーマを選択し、研究計画書立案作成のプロセスを通して研究能力を修得できる資質と能力を育成し、博士論文の研究計画書を作成する。</p> <p>【目標】 1) 研究課題を明確化しと関連する研究等の情報収集を広く行うことができる。 2) 研究課題を明確化し、研究目的を設定できる。 3) 研究目的に応じた研究計画が立案できる。</p>					
DPとの 対応	<p>1) ケアの多様性を学術的論理的に考究し、その成果を国内外に発信できる</p> <p>2) 看護の現状と課題を洞察し、次世代を見据えて看護教育を発展させ、解決策を創出できる</p> <p>3) 多角的視点から看護現象や課題を考究し、自立した研究活動ができ、看護教育・看護実践に還元できる</p>				◎	
授業計画	<p>【授業概要】 学生のこれまでの研究の取り組みを踏まえて研究テーマを選択し、研究計画書立案作成のプロセスを通して研究能力を修得できるように教育指導する。なお、研究計画作成にあたり文献の批判的検討をとおしてテーマに関連する研究課題を明確にするために文献レビューあるいは概念分析をおこない、研究疑問、研究目的、研究デザイン、看護研究倫理に基づく研究方法について、その妥当性、信頼性、一貫性を多面的に検討する。</p> <p>【授業計画】 前期：先行研究を検討しながら、研究課題と研究方法を明らかにし、研究計画書の作成を行う。</p>					
使用 テキスト	特に定めない					
参考図書	適宜紹介する					
成績評価 基準	文献検討とプレゼンテーション発表内容(100%)					
事前事後 学修	随時提示する。					

【添付資料8】

(新)

授業科目	看護学特別研究Ⅱ	時間割コード		DNNRS03E02	
		教育課程ナンバー			
		授業形態	単位数	必修・選択	開講年次
		演習	2	必修	2通
担当教員	菅田勝也、田口豊恵、小原真理子、津波古澄子、武井麻子、高木廣文、波多野浩道、磯邊厚子、宮林郁子、井上深幸、滝澤寛子、河田志帆				
授業目的 目標	<p>【目的】 研究計画に基づいて自立的に研究活動に取り組み、フィールドデータの収集および研究で得られたデータを分析し、その成果を多角的視点から考察して中間発表に取り組めるように育成する。</p> <p>【目標】 1) 研究倫理委員会の承認得ることができる。 2) データの収集・分析ができる。</p>				
DPとの 対応	<p>1) ケアの多様性を学術的論理的に考究し、その成果を国内外に発信できる</p> <p>2) 看護の現状と課題を洞察し、次世代を見据えて看護教育を発展させ、解決策を創出できる</p> <p>3) 多角的視点から看護現象や課題を考究し、自立した研究活動ができ、看護教育・看護実践に還元できる</p>				◎
授業計画	<p>【授業概要】 共通科目や各専門科目、「看護学特別研究Ⅰ」で取り組んできた内容を発展させ、研究計画に基づいて自立的に研究活動に取り組み、フィールドデータの収集および研究で得られたデータを分析し、その成果を多角的視点から考察して中間発表に取り組めるように教育指導する。研究成果を創出するプロセスをとおして、教育研究者に必要な研究能力を育成する。</p> <p>【授業計画】 前期：研究計画審査と研究倫理審査を受け、研究を実施出来るよう準備を整える。研究経過の報告を行う。 後期：研究計画に即してデータ収集と分析を行う。その結果を踏まえて関連する文献を用いて考察する。</p>				
使用 テキスト	特に定めない				
参考図書	適宜紹介する				
成績評価 基準	研究計画の審査と研究倫理審査の合格。 データ収集と分析の結果を踏まえて関連する文献を用いて考察できたか。				
事前事後 学修	随時提示する。				

【添付資料8】

(新)

授業科目	看護学特別研究Ⅲ	時間割コード		DNNRS05E03	
		教育課程ナンバー			
		授業形態	単位数	必修・選択	開講年次
		演習	2	必修	3通
担当教員	菅田勝也、田口豊恵、小原真理子、津波古澄子、武井麻子、高木廣文、波多野浩道、磯邊厚子、宮林郁子、井上深幸、滝澤寛子、河田志帆				
授業目的・目標	<p>【目的】 看護教育・研究者としての資質と能力を育成する。</p> <p>【目標】 1) 結果の論文作成ができる。 2) 研究成果を発表できる。</p>				
DPとの対応	1) ケアの多様性を学術的論理的に考究し、その成果を国内外に発信できる 2) 看護の現状と課題を洞察し、次世代を見据えて看護教育を発展させ、解決策を創出できる 3) 多角的視点から看護現象や課題を考究し、自立した研究活動ができ、看護教育・看護実践に還元できる				◎
授業計画	<p>【授業概要】 博士論文の作成に向けて、看護学特別研究Ⅱで得られた成果を推敲し、学術性と独創性を備えた博士論文として作成できるように教育指導する。また、博士論文をまとめ、論文審査および発表のプロセスをとって創造的に自立した研究活動を行い、エビデンスに基づいた看護教育・研究者としての資質と能力を育成する。</p> <p>【授業計画】 前期：論文を作成し学会発表及び学術誌に投稿する。 後期：学術誌への掲載受理を条件に、研究の最終的な取りまとめを行い、学位論文の審査を受ける。</p>				
使用テキスト	特に定めない				
参考図書	適宜紹介する				
成績評価基準	博士論文審査基準に則り評価する				
事前事後学修	随時提示する。				

【添付資料8】

(旧)

授業科目	看護学特別研究 I	時間割コード		DNNRS01E01		
		教育課程ナンバー		DNNRS01E01		
		授業形態	単位数	必修・選択	開講年次	
		演習	2	必修	1通	
担当教員	菅田勝也、田口豊恵、小原真理子、津波古澄子、武井麻子、高木廣文、波多野浩道、磯邊厚子、宮林郁子、井上深幸、滝澤寛子、宇野真由美、河田志帆					
授業目的 ・ 目標	<p>【目的】 研究テーマを選択し、研究計画書立案作成のプロセスを通して研究能力を修得できる資質と能力を育成し、博士論文の研究計画書を作成する。</p> <p>【目標】 1) 研究課題を明確化しと関連する研究等の情報収集を広く行うことができる。 2) 研究課題を明確化し、研究目的を設定できる。 3) 研究目的に応じた研究計画が立案できる。</p>					
DPとの 対応	<p>1) ケアの多様性を学術的論理的に考究し、その成果を国内外に発信できる</p> <p>2) 看護の現状と課題を洞察し、次世代を見据えて看護教育を発展させ、解決策を創出できる</p> <p>3) 多角的視点から看護現象や課題を考究し、自立した研究活動ができ、看護教育・看護実践に還元できる</p>				◎	
授業計画	<p>【授業概要】 学生のこれまでの研究の取り組みを踏まえて研究テーマを選択し、研究計画書立案作成のプロセスを通して研究能力を修得できるように教育指導する。なお、研究計画作成にあたり文献の批判的検討をとおしてテーマに関連する研究課題を明確にするために文献レビューあるいは概念分析をおこない、研究疑問、研究目的、研究デザイン、看護研究倫理に基づく研究方法について、その妥当性、信頼性、一貫性を多面的に検討する。</p> <p>【授業計画】 前期：先行研究を検討しながら、研究課題と研究方法を明らかにし、研究計画書の作成を行う。</p>					
使用 テキスト	特に定めない					
参考図書	適宜紹介する					
成績評価 基準	文献検討とプレゼンテーション発表内容(100%)					
事前事後 学修	随時提示する。					

【添付資料8】

(旧)

授業科目	看護学特別研究Ⅱ	時間割コード				
		教育課程ナンバー		DNNRS03E02		
		授業形態	単位数	必修・選択	開講年次	
		演習	2	必修	2通	
担当教員	菅田勝也、田口豊恵、小原真理子、津波古澄子、武井麻子、高木廣文、波多野浩道、磯邊厚子、宮林郁子、井上深幸、滝澤寛子、宇野真由美、河田志帆					
授業目的 目標	<p>【目的】 研究計画に基づいて自立的に研究活動に取り組み、フィールドデータの収集および研究で得られたデータを分析し、その成果を多角的視点から考察して中間発表に取り組めるように育成する。</p> <p>【目標】 1)研究倫理委員会の承認得ることができる。 2)データの収集・分析ができる。</p>					
DPとの 対応	<p>1)ケアの多様性を学術的論理的に考究し、その成果を国内外に発信できる</p> <p>2)看護の現状と課題を洞察し、次世代を見据えて看護教育を発展させ、解決策を創出できる</p> <p>3)多角的視点から看護現象や課題を考究し、自立した研究活動ができ、看護教育・看護実践に還元できる</p>				◎	
授業計画	<p>【授業概要】 共通科目や各専門科目、「看護学特別研究Ⅰ」で取り組んできた内容を発展させ、研究計画に基づいて自立的に研究活動に取り組み、フィールドデータの収集および研究で得られたデータを分析し、その成果を多角的視点から考察して中間発表に取り組めるように教育指導する。研究成果を創出するプロセスをとおして、教育研究者に必要な研究能力を育成する。</p> <p>【授業計画】 前期：研究計画審査と研究倫理審査を受け、研究を実施出来るよう準備を整える。研究経過の報告を行う。 後期：研究計画に即してデータ収集と分析を行う。その結果を踏まえて関連する文献を用いて考察する。</p>					
使用 テキスト	特に定めない					
参考図書	適宜紹介する					
成績評価 基準	研究計画の審査と研究倫理審査の合格。 データ収集と分析の結果を踏まえて関連する文献を用いて考察できたか。					
事前事後 学修	随時提示する。					

【添付資料8】

(旧)

授業科目	看護学特別研究Ⅲ	時間割コード		DNNRS05E03	
		教育課程ナンバー			
		授業形態	単位数	必修・選択	開講年次
		演習	2	必修	3通
担当教員	菅田勝也、田口豊恵、小原真理子、津波古澄子、武井麻子、高木廣文、波多野浩道、磯邊厚子、宮林郁子、井上深幸、滝澤寛子、宇野真由美、河田志帆				
授業目的・目標	<p>【目的】 看護教育・研究者としての資質と能力を育成する。</p> <p>【目標】 1) 結果の論文作成ができる。 2) 研究成果を発表できる。</p>				
DPとの対応	1) ケアの多様性を学術的論理的に考究し、その成果を国内外に発信できる 2) 看護の現状と課題を洞察し、次世代を見据えて看護教育を発展させ、解決策を創出できる 3) 多角的視点から看護現象や課題を考究し、自立した研究活動ができ、看護教育・看護実践に還元できる				◎
授業計画	<p>【授業概要】 博士論文の作成に向けて、看護学特別研究Ⅱで得られた成果を推敲し、学術性と独創性を備えた博士論文として作成できるように教育指導する。また、博士論文をまとめ、論文審査および発表のプロセスをとって創造的に自立した研究活動を行い、エビデンスに基づいた看護教育・研究者としての資質と能力を育成する。</p> <p>【授業計画】 前期：論文を作成し学会発表及び学術誌に投稿する。 後期：学術誌への掲載受理を条件に、研究の最終的な取りまとめを行い、学位論文の審査を受ける。</p>				
使用テキスト	特に定めない				
参考図書	適宜紹介する				
成績評価基準	博士論文審査基準に則り評価する				
事前事後学修	随時提示する。				

教員の氏名等

(看護学研究科看護学専攻(D))

前判定結果	調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に就事する週当たり平均日数
	1	専	教授(学長)	カンダカツヤ 菅田 勝也 <令和6年4月>		保健学博士		看護管理特講※ 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ	1通 1通 2通 3通	1.1 2 2 2	1 1 1 1	京都看護大学 学長 (令4.4)	4日
	2	専	教授(研究科長)	タグチ トヨエ 田口 豊志 <令和6年4月>		博士(学術)		看護教育実践特講※ 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ	1通 1通 2通 3通	0.4 2 2 2	1 1 1 1	京都看護大学 大学院看護学研究科 教授 (平26.4)	4日
	3	専	教授	オハラ マリコ 小原 真理子 <令和6年4月>		博士(学術)		国際・災害看護特講※ 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ	1通 1通 2通 3通	1.1 2 2 2	1 1 1 1	清泉女学院大学 看護学部看護学 科 教授 (平30.4)	4日
	4	専	教授	ツハコ スミコ 津波古 澄子 <令和6年4月>		博士(医学)		看護教育特講※ 看護概念・理論構築特講※ 英語論文読解と論文作成法※ 看護教育実践特講※ 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ	1前 1後 1通 1通 1通 2通 3通	0.6 0.5 1.1 0.4 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	京都看護大学 大学院看護学研究科 教授 (令4.10)	4日
	5	専	教授	タケイ アサコ 武井 麻子 <令和6年4月>		保健学博士		ケアの本質と倫理特講※ 看護教育実践特講※ 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ	1後 1通 1通 2通 3通	0.5 0.4 2 2 2	1 1 1 1 1	office-Asako代 表 (平27.6)	4日
	6	専	教授	タカギ ヒロフミ 高木 廣文 <令和6年4月>		保健学博士		量的看護研究法 質的看護研究法 英語論文読解と論文作成法※ 広域・地域保健特講※ 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ	1前 1前 1通 1通 1通 2通 3通	1 1 0.7 0.6 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	神戸市看護大学 特任教授 (令4.4)	4日
	7	専	教授	ハタノ ヒロミチ 波多野 浩道 <令和6年4月>		保健学修士		広域・地域保健特講※ 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ	1通 1通 2通 3通	0.5 2 2 2	1 1 1 1	久留米大学 大学院比較文化研究 科非常勤講師 (令12.4)	4日
	8	専	教授	イソベ アツコ 磯邊 厚子 <令和6年4月>		博士(学術)		国際・災害看護特講※ 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ	1通 1通 2通 3通	0.9 2 2 2	1 1 1 1	京都看護大学 看護学部 教授 (令4.4)	4日
	9	専	教授	ミヤバヤシ イクコ 宮林 郁子 <令和6年4月>		Master of Health Science		看護教育特講※ 看護概念・理論構築特講※ ケアの本質と倫理特講※ 英語論文読解と論文作成法※ 看護教育実践特講※ 看護管理特講※ 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ	1前 1後 1後 1通 1通 1通 1通 2通 3通	0.4 0.3 0.3 0.3 0.2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	清泉女学院大学 看護学部看護学 科 教授 (令2.4)	4日
	10	専	教授	イノウエ ミユキ 井上 深幸 <令和6年4月>		修士(福祉社会学)		看護教育実践特講※ 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ	1通 1通 2通 3通	0.3 2 2 2	1 1 1 1	京都看護大学 大学院看護学研究科 教授(平 27.4)	4日
	11	専	教授	タギザワ ヒロコ 滝澤 寛子 <令和6年4月>		博士(都市科学)		広域・地域保健特講※ 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ	1通 1通 2通 3通	0.5 2 2 2	1 1 1 1	京都看護大学 大学院看護学研究科 教授 (令2.4)	4日
	①	専	准教授	ウノ(イワナカ)マユミ 宇野(岩永)真由美 <令和6年4月>		博士(看護学)		看護教育実践特講※	1通	0.3	1	京都看護大学 看護学部教授 (令和5.4)	4日
	13	専	准教授	カワタ シホ 河田 志帆 <令和6年4月>		博士(看護学)		広域・地域保健特講※ 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ	1通 1通 2通 3通	0.4 2 2 2	1 1 1 1	京都看護大学 大学院看護学研究科 准教授 (令4.4)	4日
	一	兼任	講師	タイラ ヒデミ 平 英美 <令和6年4月>		修士(文学)		ケアの本質と倫理特講※	1後	0.3	1	京都看護大学 看護学部教授 (平26.4)	
	一	兼任	講師	クスマ タカシ 楠見 孝 <令和6年4月>		博士(心理学)		看護の概念・理論構築特講※	1後	0.3	1	京都大学大学院 教育学研究科教授 (平11.10)	

教 員 の 氏 名 等												
(看護学研究科看護学専攻(D))												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千 円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する週当 たり平均日数
1	専	教授 (学長)	カンダカツヤ 菅田 勝也 <令和6年4月>		保健学 博士		看護管理特講※ 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ	1通 1通 2通 3通	1.1 2 2 2	1 1 1 1	京都看護大学 学長 (令4.4)	4日
2	専	教授 (研究 科長)	タグチ トヨエ 田口 豊恵 <令和6年4月>		博士 (学 術)		看護教育実践特講※ 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ	1通 1通 2通 3通	0.4 1 2 2	1 1 1 1	京都看護大学 大学院看護学研 究科 教授 (平26.4)	4日
3	専	教授	オハラ マリコ 小原 真理子 <令和6年4月>		博士 (学 術)		国際・災害看護特講※ 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ	1通 1通 2通 3通	1.1 1 2 2	1 1 1 1	清泉女学院大学 看護学部看護学 科 教授 (平30.4)	4日
4	専	教授	ツハコ スミコ 津波古 澄子 <令和6年4月>		博士 (医 学)		看護教育特講※ 看護概念・理論構築特講※ 英語論文読解と論文作成法※ 看護教育実践特講※ 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ	1前 1後 1通 1通 1通 2通 3通	0.6 0.5 1.1 0.4 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1	京都看護大学大 学院看護学研 究科 教授 (令4.10)	4日
5	専	教授	タケイ アサコ 武井 麻子 <令和6年4月>		保健学 博士		ケアの本質と倫理特講※ 看護教育実践特講※ 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ	1後 1通 1通 2通 3通	0.5 0.4 1 2 2	1 1 1 1 1	office-Asako代 表 (平27.6)	4日
6	専	教授	タカギ ヒロフミ 高木 廣文 <令和6年4月>		保健学 博士		量的看護研究法 質的看護研究法 英語論文読解と論文作成法※ 広域・地域保健特講※ 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ	1前 1前 1通 1通 1通 2通 3通	1 1 0.7 0.6 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1	神戸市看護大学 特任教授 (令4.4)	4日
7	専	教授	ハタノ ヒロミチ 波多野 浩道 <令和6年4月>		保健学 修士		広域・地域保健特講※ 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ	1通 1通 2通 3通	0.5 1 2 2	1 1 1 1	久留米大学大 学院比較文化研 究科非常勤講師 (令12.4)	4日
8	専	教授	イソベ アツコ 磯邊 厚子 <令和6年4月>		博士 (学 術)		国際・災害看護特講※ 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ	1通 1通 2通 3通	0.9 1 2 2	1 1 1 1	京都看護大学 看護学部 教授 (令4.4)	4日
9	専	教授	ミヤバヤシ イクコ 宮林 郁子 <令和6年4月>		Master of Health Scienc e		看護教育特講※ 看護概念・理論構築特講※ ケアの本質と倫理特講※ 英語論文読解と論文作成法※ 看護教育実践特講※ 看護管理特講 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ	1前 1後 1後 1通 1通 1通 1通 2通 3通	0.4 0.3 0.3 0.3 0.2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	清泉女学院大学 看護学部看護学 科 教授 (令2.4)	4日
10	専	教授	イノウエ ミユキ 井上 深幸 <令和6年4月>		修士(福 祉社会 学)		看護教育実践特講※ 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ	1通 1通 2通 3通	0.3 1 2 2	1 1 1 1	京都看護大学大 学院看護学研 究科 教授(平 27.4)	4日
11	専	教授	タキザワ ヒロコ 滝澤 寛子 <令和6年4月>		博士 (都 市 科 学)		広域・地域保健特講※ 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ	1通 1通 2通 3通	0.5 1 2 2	1 1 1 1	京都看護大学大 学院看護学研 究科 教授 (令2.4)	4日
12	専	教授	ウノ(イワナカ)マユミ 宇野(岩永)真由 美 <令和6年4月>		博士 (看護 学)		看護教育実践特講※ 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ	1通 1通 2通 3通	0.3 1 2 2	1 1 1 1	京都看護大学 看護学部 教授 (令和5.4)	4日
13	専	准教授	カワタ シホ 河田 志帆 <令和6年4月>		博士 (看護 学)		広域・地域保健特講※ 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ	1通 1通 2通 3通	0.4 1 2 2	1 1 1 1	京都看護大学大 学院看護学研 究科 准教授 (令4.4)	4日
14	兼任	講師	タイラ ヒデミ 平 英美 <令和6年4月>		修士 (文 学)		ケアの本質と倫理特講※	1後	0.3	1	京都看護大学 看護学部 教授 (平26.4)	

15	兼任	講師	クシミ タカシ 楠見 孝 <令和6年4月>	博士 (心理学)	看護の概念・理論構築特講※	1後	0.3	1	京都大学大学院 教育学研究科教授 (平11.10)
----	----	----	-----------------------------	-------------	---------------	----	-----	---	---------------------------------

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職位	学位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計	備考
教授	博士	人	人	人	1人	人	1人	6人	8人	
	修士	人	人	人	人	人	1人	2人	3人	
	学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博士	人	人	人	2人	人	人	人	2人	
	修士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講師	博士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助教	博士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合計	博士	人	人	人	3人	1人	人	6人	10人	
	修士	人	人	人	人	人	1人	2人	3人	
	学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職位	学位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計	備考
教授	博士	人	人	人	2人	人	1人	6人	9人	
	修士	人	人	人	人	人	1人	2人	3人	
	学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	修士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講師	博士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助教	博士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合計	博士	人	人	人	3人	1人	人	6人	10人	
	修士	人	人	人	人	人	1人	2人	3人	
	学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

【添付資料11】

(新)

専任教員一覧

京都看護大学大学院 看護学研究科 看護学専攻(D)

研究領域	調書番号	職位	氏名(年齢) (<就任予定年月日>)	担当授業科目名	前判定の結果
看護学の発展領域	1	教授	菅田 勝也() <令和6年4月>	看護管理特講※	
				看護学特別研究 I	
				看護学特別研究 II	
				看護学特別研究 III	
	2	教授	田口 豊恵() <令和6年4月>	看護教育実践特講※	
				看護学特別研究 I	
				看護学特別研究 II	
				看護学特別研究 III	
	3	教授	小原 真理子() <令和6年4月>	国際・災害看護特講※	
				看護学特別研究 I	
				看護学特別研究 II	
				看護学特別研究 III	
	4	教授	津波古 澄子() <令和6年4月>	看護教育特講※	
				看護概念・理論構築特講※	
				英語論文読解と論文作成法※	
				看護教育実践特講※	
				看護学特別研究 I	
				看護学特別研究 II	
				看護学特別研究 III	
	5	教授	武井 麻子() <令和6年4月>	ケアの本質と倫理特講※	
				看護教育実践特講※	
				看護学特別研究 I	
				看護学特別研究 II	
				看護学特別研究 III	
6	教授	高木 廣文() <令和6年4月>	量的看護研究法		
			質的看護研究法		
			英語論文読解と論文作成法※		
			広域・地域保健特講※		
			看護学特別研究 I		
			看護学特別研究 II		
看護学特別研究 III					

研究領域	調書番号	職位	氏名(年齢) (就任予定年月日)	担当授業科目名	前判定の結果
看護学の発展領域	7	教授	波多野 浩道() <令和6年4月>	広域・地域保健特講※	
				看護学特別研究 I	
				看護学特別研究 II	
				看護学特別研究 III	
	8	教授	磯邊 厚子() <令和6年4月>	国際・災害看護特講※	
				看護学特別研究 I	
				看護学特別研究 II	
				看護学特別研究 III	
	9	教授	宮林 郁子() <令和6年4月>	看護教育特講※	
				看護概念・理論構築特講※	
				ケアの本質と倫理特講※	
				英語論文読解と論文作成法※	
				看護教育実践特講※	
				看護管理特講※	
				看護学特別研究 I	
				看護学特別研究 II	
	10	教授	井上 深幸() <令和6年4月>	看護教育実践特講※	
				看護学特別研究 I	
				看護学特別研究 II	
				看護学特別研究 III	
	11	教授	滝澤 寛子() <令和6年4月>	広域・地域保健特講※	
				看護学特別研究 I	
				看護学特別研究 II	
				看護学特別研究 III	
	①	准教授	宇野(岩永)真由美() <令和6年4月>	看護教育実践特講※	
	13	准教授	河田 志帆() <令和6年4月>	広域・地域保健特講※	
看護学特別研究 I					
看護学特別研究 II					
看護学特別研究 III					

【添付資料11】

(旧)

専任教員一覧

京都看護大学大学院 看護学研究科 看護学専攻(D)

研究領域	調書番号	職位	氏名(年齢) (<就任予定年月日>)	担当授業科目名	備考
看護学の発展領域	1	教授	菅田 勝也() <令和6年4月>	看護管理特講※	
				看護学特別研究 I	
				看護学特別研究 II	
				看護学特別研究 III	
	2	教授	田口 豊恵() <令和6年4月>	看護教育実践特講※	
				看護学特別研究 I	
				看護学特別研究 II	
				看護学特別研究 III	
	3	教授	小原 真理子() <令和6年4月>	国際・災害看護特講※	
				看護学特別研究 I	
				看護学特別研究 II	
				看護学特別研究 III	
	4	教授	津波古 澄子() <令和6年4月>	看護教育特講※	
				看護概念・理論構築特講※	
				英語論文読解と論文作成法※	
				看護教育実践特講※	
				看護学特別研究 I	
				看護学特別研究 II	
				看護学特別研究 III	
	5	教授	武井 麻子() <令和6年4月>	ケアの本質と倫理特講※	
				看護教育実践特講※	
				看護学特別研究 I	
				看護学特別研究 II	
	6	教授	高木 廣文() <令和6年4月>	量的看護研究法	
質的看護研究法					
英語論文読解と論文作成法※					
広域・地域保健特講※					
看護学特別研究 I					
看護学特別研究 II					
看護学特別研究 III					

研究領域	調書番号	職位	氏名(年齢) (就任予定年月日)	担当授業科目名	備考
看護学の発展領域	7	教授	波多野 浩道() <令和6年4月>	広域・地域保健特講※	
				看護学特別研究 I	
				看護学特別研究 II	
				看護学特別研究 III	
	8	教授	磯邊 厚子() <令和6年4月>	国際・災害看護特講※	
				看護学特別研究 I	
				看護学特別研究 II	
				看護学特別研究 III	
	9	教授	宮林 郁子() <令和6年4月>	看護教育特講※	
				看護概念・理論構築特講※	
				ケアの本質と倫理特講※	
				英語論文読解と論文作成法※	
				看護教育実践特講※	
				看護管理特講※	
				看護学特別研究 I	
				看護学特別研究 II	
	10	教授	井上 深幸() <令和6年4月>	看護教育実践特講※	
				看護学特別研究 I	
				看護学特別研究 II	
				看護学特別研究 III	
	11	教授	滝澤 寛子() <令和6年4月>	広域・地域保健特講※	
				看護学特別研究 I	
				看護学特別研究 II	
				看護学特別研究 III	
	12	教授	宇野(岩永)真由美() <令和6年4月>	看護教育実践特講※	
				看護学特別研究 I	
				看護学特別研究 II	
				看護学特別研究 III	
13	准教授	河田 志帆() <令和6年4月>	広域・地域保健特講※		
			看護学特別研究 I		
			看護学特別研究 II		
			看護学特別研究 III		

【添付資料12】

(新規資料)

博士後期課程 専任教員人事計画

【資料8-3】

研究領域	調書番号	職位	氏名	2023 (令和5) 年度	2024 (令和6) 年度	2025 (令和7) 年度	2026 (令和8) 年度		2027 (令和9) 年度	2028 (令和10) 年度
				開設前年度	開設時4月1日	開設2年目	完成年度4月1日	完成年度3月31日	完成翌年度4月1日	完成翌翌年度4月1日
看護学の発展領域	1	教授	菅田 勝也							
		後任人事	令和6年度に菅田と同様の分野で優れた研究業績と教育上の業績を有する教員を新規採用する。		新規採用者が、研究業績の蓄積を継続する。	新規採用者が、研究業績の蓄積を継続する。	新規採用者が、研究業績の蓄積を継続すると共に、菅田から院生の研究指導の引継ぎを受ける。		新規採用者が、菅田の担当科目と院生指導を引き継ぐ予定	新規採用者が、菅田の担当科目と院生指導を引き継ぐ予定
	2	教授	田口 豊恵							
		後任人事	田口と同様の分野で既存博士号取得者のY. E.と、令和7年度に優れた研究業績と教育上の業績を有する教員を新規採用する。	Y. E. が研究業績の蓄積を継続する。	Y. E. が研究業績の蓄積を継続する。	Y. E. 並びに、令和7年度の新規採用者が、研究業績の蓄積を継続する。	Y. E. 並びに、新規採用者が、研究業績の蓄積を継続すると共に、田口から院生の研究指導の引継ぎを行う。		Y. E. 並びに、新規採用者が、田口の担当科目と院生指導を引き継ぐ予定	Y. E. 並びに、新規採用者が、田口の担当科目と院生指導を引き継ぐ予定
	3	教授	小原 真理子							
		後任人事	令和5年度に小原と同様の分野で優れた研究業績と教育上の業績を有する教員を新規採用する。	令和5年度の新規採用者が、研究業績の蓄積を継続する。	新規採用者が、研究業績の蓄積を継続する。	新規採用者が、研究業績の蓄積を継続する。	新規採用者が、研究業績の蓄積を継続すると共に小原から院生の研究指導の引継ぎを行う。		新規採用者が、小原の担当科目と院生指導を引き継ぐ予定	新規採用者が、小原の担当科目と院生指導を引き継ぐ予定
	4	教授	津波古 澄子							
		後任人事	令和8年度に津波古と同様の分野で優れた研究業績と教育上の業績を有する教員を新規採用する。				令和8年度の新規採用者が、研究業績の蓄積を継続すると共に、津波古から院生の研究指導の引継ぎを行う。		新規採用者が、津波古の担当科目と院生指導を引き継ぐ予定	新規採用者が、津波古の担当科目と院生指導を引き継ぐ予定
	5	教授	武井 麻子							
		後任人事	武井と同様の分野で既存博士号取得者のM. S.と、令和7年度に優れた研究業績と教育上の業績を有する教員を新規採用する。	M. S. が研究業績の蓄積を継続する。	M. S. が研究業績の蓄積を継続する。	M. S. 並びに、令和7年度の新規採用者が、研究業績の蓄積を継続する。	M. S. 並びに、新規採用者が、研究業績の蓄積を継続すると共に、津波古から院生の研究指導の引継ぎを行う。		M. S. 並びに、新規採用者が、武井の担当科目と院生指導を引き継ぐ予定	M. S. 並びに、新規採用者が、武井の担当科目と院生指導を引き継ぐ予定
	6	教授	高木 廣文							
		後任人事	令和8年度に高木と同様の分野で優れた研究業績と教育上の業績を有する教員を新規採用する。				令和8年度の新規採用者が、研究業績の蓄積を継続すると共に、高木から院生の研究指導の引継ぎを行う。		新規採用者が、高木の担当科目と院生指導を引き継ぐ予定	新規採用者が、高木の担当科目と院生指導を引き継ぐ予定
	7	教授	波多野 浩道							
		後任人事	波多野と同様の分野で既存博士号取得者のI. A. が研究業績の蓄積を継続する。	I. A. が研究業績の蓄積を継続する。	I. A. が研究業績の蓄積を継続する。	I. A. が研究業績の蓄積を継続する。	I. A. が、研究業績の蓄積を継続すると共に、波多野から院生の研究指導の引継ぎを行う。		I. A. が、波多野の担当科目と院生指導を引き継ぐ予定	I. A. が、波多野の担当科目と院生指導を引き継ぐ予定
	8	教授	磯邊 厚子							
		後任人事	令和6年度に磯邊と同様の分野で優れた研究業績と教育上の業績を有する教員を新規採用する。		令和6年度の新規採用者が、研究業績の蓄積を継続する。	新規採用者が、研究業績の蓄積を継続する。	新規採用者が、研究業績の蓄積を継続すると共に、磯邊から院生の研究指導の引継ぎを行う。		新規採用者が、磯邊の担当科目と院生指導を引き継ぐ予定	新規採用者が、磯邊の担当科目と院生指導を引き継ぐ予定
	9	教授	宮林 郁子							
		後任人事	宮林と同様の分野で既存博士号取得者のM. N.とS. F.が研究業績の蓄積を継続する。	M. N.とS. F.が研究業績の蓄積を継続する。	M. N.とS. F.が研究業績の蓄積を継続する。	M. N.とS. F.が研究業績の蓄積を継続する。	M. N.とS. F.が、研究業績の蓄積を継続すると共に、宮林から院生の研究指導の引継ぎを行う。		M. N.とS. F.が、宮林の担当科目と院生指導を引き継ぐ予定	M. N.とS. F.が、宮林の担当科目と院生指導を引き継ぐ予定
	10	教授	井上 深幸							
		後任人事	令和5年度に井上と同様の分野で優れた研究業績と教育上の業績を有する教員を新規採用する。	令和5年度の新規採用者が、研究業績の蓄積を継続する。	新規採用者が、研究業績の蓄積を継続する。	新規採用者が、研究業績の蓄積を継続する。	新規採用者が、研究業績の蓄積を継続すると共に井上から院生の研究指導の引継ぎを行う。		新規採用者が、井上の担当科目と院生指導を引き継ぐ予定	新規採用者が、井上の担当科目と院生指導を引き継ぐ予定
11	教授	滝澤 寛子								
12	准教授	宇野 (岩永) 真由美								
			研究業績の蓄積を継続する。	研究業績の蓄積を継続する。	研究業績の蓄積を継続する。	研究業績の蓄積を継続する。				
13	准教授	河田 志帆								